

# DXの取組みと途上国におけるDXパイロット活動

## JICAにおけるDXの3つの取組み

JICAでは以下のようなDXパイロットプロジェクトを実施予定です

パイロット1. マルチセクターのデータに基づく政策立案

北部ウガンダ難民キャンプと受入地域におけるコロナ支援

パイロット2. 金融包摂性の向上によるインクルーシブなDX

カンボジア中銀デジタル通貨の活用促進

## 「JICA mundi dx」で検索





## データ整備：集める、見える化、活用する

JICAの国際協力は数多くの国で実施（150か国、800件以上）。事業の実施を通じて得た現地のさまざまな調査データを集約して管理し、国や地域ごとの多角的な分析に活用するなど、今後の途上国の事業形成に役立てる。



## デジタル技術の活用：産官学との連携

DXの実現には各分野で専門的なデジタル技術を持つ企業や大学、自治体などの協力が不可欠。テクノロジーの活用を軸に、これまで以上に産官学とのつながりを強め、途上国の発展に力を入れていく。



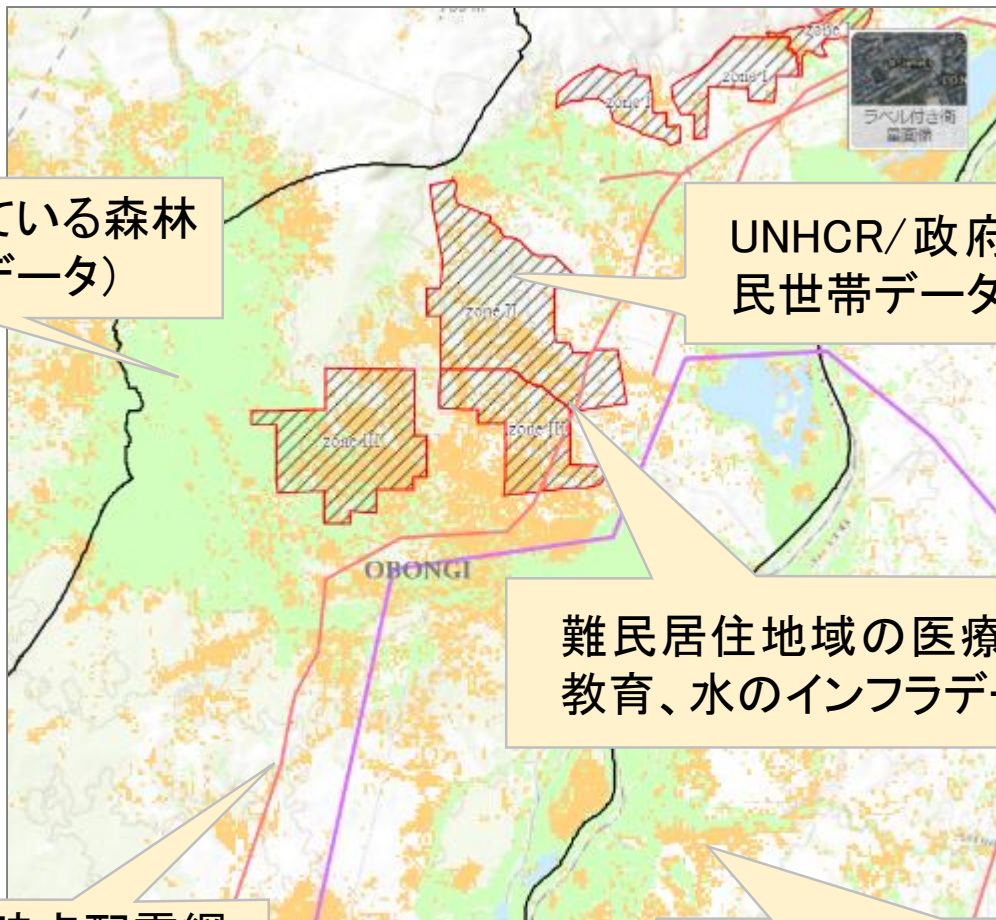
## 人財ネットワークの強化：つながりを大切に

JICAの人材育成を通じて、日本で学んだ知識や技術を生かして母国で活躍している人も多い。SNSや学習プラットフォームを通じ、すべての研修員や留学生と支援側関係者の相互学習とネットワークを強化し、JICAの事業において貴重な即戦力として活躍頂く。

# 1. ウガンダ：北部ウガンダ難民キャンプと受入地域におけるコロナ支援

北部ウガンダ地域には南スーダンからの難民が急増。ウガンダ政府は難民の受入に寛容で、JICAは政府を通じて難民の受入コミュニティの地方行政を支援している。同地域のマルチセクターのデータを重ねて住民動向を把握し、データに基づく政策立案を行えるようにしていく。

## 【実現イメージ】



2020年初に残っている森林  
緑(オープンデータ)

UNHCR/政府保有の難  
民世帯データ

難民居住地域の医療施設、道路、橋、  
教育、水のインフラデータ(JICA保有)

2018年時点配電網  
(オープンデータ)

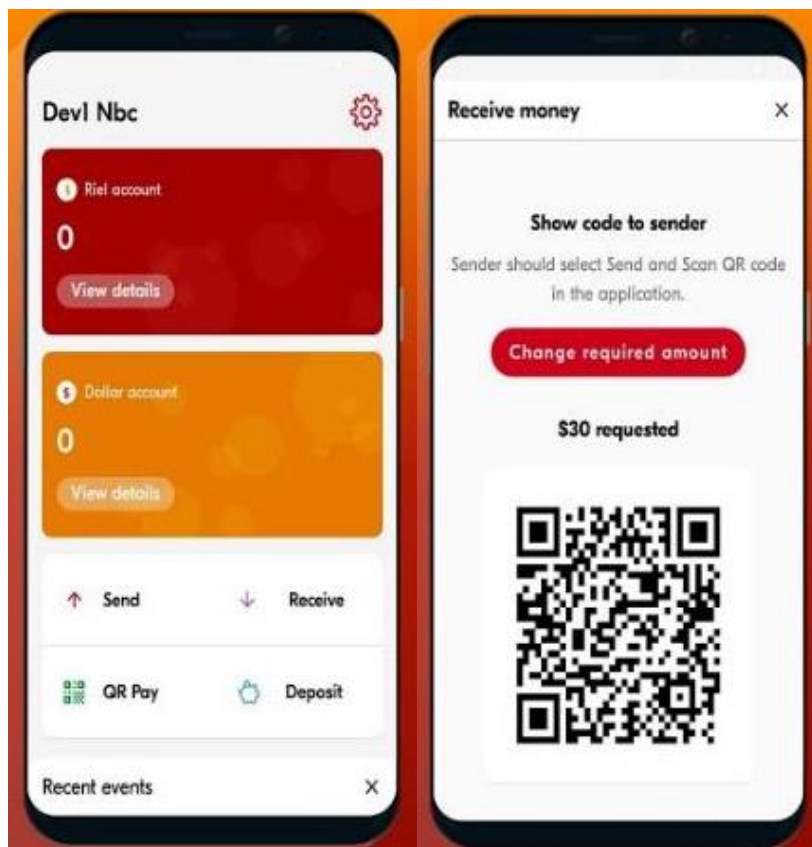
2016年以降に失われた森林  
オレンジ(オープンデータ)

## 2. カンボジア：中銀デジタル通貨の活用促進

世界で初めて中央銀行としてデジタル通貨（CBDC\*）の導入を決定したカンボジアのBakong導入後の普及支援を実施する。中央銀行に対する制度面の協力も行い、金融包摂向上、現地通貨流通促進を実現する。

### デジタル通貨のモバイル決済アプリ「Bakong」

### 現地にBakong普及がもたらす価値



- 金融包摂の向上（現状約22%）
- 現地通貨の流通促進（現状約20%）  
→中央銀行の金融政策オプションの拡大
- 個人の海外決済手段の提供
- ブロックチェーン取引履歴の完全追跡化  
→マネーロンダリング等金融犯罪監視の強化

\*CBDC: Central Bank Digital Currency

\*\*2019年に国際的なマネーロンダリング監視組織FATFは、カンボジアを「グレー・リスト（非常に脆弱な国）」に追加